

2016年6月15日

各位

**積水ハウス株式会社**  
**ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン**

**豊かな感性を呼び覚ます暗闇体験を、子どもたちに。**

**「ダイアログ・イン・ザ・ダーク 対話のある家」初の夏休みプログラム開催決定**  
**～親子向け、点字体験ができる“自由研究応援企画”も初実施～**

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則、以下「積水ハウス」)が、情報受発信拠点「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪・ナレッジキャピタル内)で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(本社:東京都渋谷区、代表:志村真介)との共創プログラム、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下、DID)対話のある家」は、7月14日から8月29日まで、初めての夏休みプログラム「鮮やかな夏色のくらやみ」を開催します。実施に先立ち、6月16日正午よりWEBでのチケット先行販売を開始。また開催期間中、本プログラムと合わせて点字を体験する、親子向け「自由研究応援企画『触れる、感じる、見えてくる 夏休みくらやみ教室』」は、7月4日正午よりチケット先行販売を開始します。

### 世界で普及する、子どもの暗闇体験

これまで世界39カ国・約130都市で開催され、800万人以上が体験した、暗闇のソーシャルエンターテイメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID)」。今、その暗闇を、子どもの教育に活かす動きが世界で広がっています。視覚を閉じることによって呼び覚ます子どもの感性や能力。怖さと好奇心が交差する真っ暗闇を一緒に楽しむことで弾む、親子の対話。そんな気づきや家族のコミュニケーションを生むDIDの世界を、日本でも多くの子どもたちに体験してもらおうと、今回、初の夏休みプログラムの実施を決定しました。



### 暗闇で広がる夏のイメージと、記憶に残る新しい思い出～点字体験プログラムも実施～

新プログラム「鮮やかな夏色のくらやみ」では、“線香花火”や“蚊取り線香”など夏らしいアイテムや、海辺のシーンを再現。視覚以外の感覚を使って、暗闇の中で数えきれないほどのそれぞれ夏のイメージが呼び覚まされます。

また、期間中合計7回、初の自由研究応援企画として「触れる、感じる、見えてくる 夏休みくらやみ教室」を実施します。親子で70分のDIDプログラムを体験した後、「点字板」と「点筆」を使って、点字を打つワークショップに挑戦。暗闇を案内する視覚障がい者のアテンドが、今度は先生となって、一緒に点字作品を作ります。暗闇体験で見つける新しい「気づき」と併せて、子どもたちの記憶に残る学びの場となることを目指します。

## ■ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」開催概要

|        |   |  |
|--------|---|--|
|        | 第13回(夏休み)プログラム<br>「鮮やかな夏色のくらやみ」   | 自由研究応援企画<br>「触れる、感じる、見えてくる<br>夏休みくらやみ教室」<br>(第13回プログラム+点字体験)             |
| 開催場所   | グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階 (大阪市北区大深町3番1号)<br>積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」                      |  |
| 開催期間   | 2016年7月14日(木)～<br>8月29日(月)<br>(火曜・水曜定休)   | 2016年7月21日(木)・22日(金)・23日(土)・<br>8月18日(木)・19日(金)・21日(日)・<br>22日(月)(合計7日間) |
| 開催時間   | 午前11時より1日5回   | 午前11時より1回のみ  |
| 参加料金   | 大人3,500円/学生2,500円/<br>小学生1,500円(税込)   | 大人4,000円/学生3,000円/<br>小学生2,000円(税込)                                      |
| 所要時間   | 70分   | 90分(プログラム70分+点字体験20分)  |
| 参加人数   | 各回 6人まで   |  |
| チケット発売 | 6月16日(木)正午～   | 7月4日(月)正午～   |
| 購入方法   | WEB予約 <a href="http://www.sumufumulab.jp/did/">http://www.sumufumulab.jp/did/</a> (事前予約制) |  |
| 問い合わせ  | 「対話のある家」お問い合わせ事務局:<br>0120-29-2704(11:00～18:00 ※土日祝日除く)                                   |  |

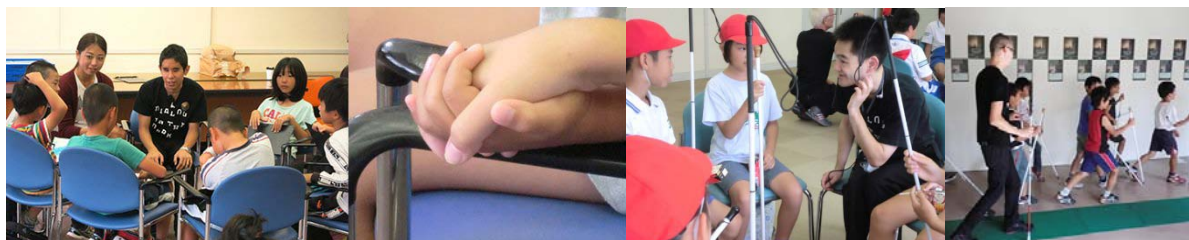
## ■「子どもたちの教育に、ダイアログ・イン・ザ・ダークを」

一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ代表理事 志村 季世恵

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケが発案したソーシャルエンターテインメントです。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験します。



子供たちがダイアログ・イン・ザ・ダークを体験すると、驚くことが起こります。内気な子が積極的になったり、時にはいじめられっ子がいじめっ子の手を引いてサポートしたりします。視覚障がい者とも、すぐに対等な関係を築きます。お母さんも、先生も、今まで全く知らなかった、たくましくて優しい姿がそこにはあります。ヨーロッパ、イスラエル、アジア各国ではDIDが課外授業に取り入れられ、多くの子供たちが体験する仕組みができています。実は、日本以外では、世界の約6割の参加者が子供たちです。日本でも、もっと多くの子供たちに体験をしてほしい。DIDの暗闇体験を経験した彼らが大人になったときに、きっと社会は大きく変わると思っています。



子どもたちとアテンドの交流(「神戸しあわせの村」にて)

## ■1万人が体験した、DIDと積水ハウスの共創プログラム「対話のある家」

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「対話のある家」を2013年4月に開設。日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供し、2016年3月には体験者が1万人を突破しました。さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する住まいの快適性を深化させる研究や、コミュニケーション、チームビルディング、リーダーシップの養成を目的とした研修等にも展開していく予定です。



新たに、見て触れて楽しめる「DID 対話のある家」の展示コーナーも開設

## ■これまでの開催実績

- 開催日数: 2013年4月26日から開始、開催日数は計507日間 (2016年5月30日現在)
- 参加者数: 約10,656人 / 性別: 男性42%、女性58%
- 年代: 10代以下7%、20代29%、30代28%、40代21%、50代11%、60代以上4%
- クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムで実施しています。

## ■これまでの体験者の声

- 体験者6人とアテンド2人の8人で「家族」として過ごしましたが、もっと大勢いたように感じました。お互いに声をかけあい、優しくなれました。子どもの頃の夏休みの安らかな気持ちを思い出しました。(女性)
- 五感をとぎすませて、手触り、足触り、におい、音に注意すると、懐かしい田舎の実家で過ごす夏休みが思い出されました。本当に素敵な経験ができました。(23歳 女性)
- 暗闇の中には「安心感」が沢山詰まっていた。人の声がすること、風が吹くこと、家の中にあるものすべてが自分の手から感じられ、怖いという感覚がまったくなくなり、前に進むことがワクワクすることになっていきました。人とのつながりが声かけでどんどん深まり、大切な存在に変わることを実感し、これからの毎日に活かしていきたいと思いました。(26歳 女性)
- 真っ黒な暗闇に入ったのは初めてで、血のつながりを超えた絆を感じた。体験していた時間があつという間だった。味覚、聴覚、触った感じが普段よりもよく伝わってきた。(12歳 女性)
- どんな体験をするのか楽しみにしていましたが、親戚の家に皆で遊びに来たようにワイワイと楽しむことができました。普段生活していく中ではあまり気にとめない家具や壁の手触りや、床の感触など、且が見えない事で触って確かめて安心を得られました。(32歳 女性)
- 楽しくて、面白くて、考えさせられる時間と環境です。多くの人に体験していただきたいと思いました。バリアフリーの利便さを知っているつもりでしたが、今回実感させられました。しかしながら、あまりの利便さは人としての能力の低下をもたらすと思います。正しいとは何か？便利とは何か？豊かさとは何か？を考えさせられました。(40代 女性)
- いつ来ても同じ温かさを感じられます。泣きそうになりながら人と人とのつながりの喜びを再認識させて下さってありがとうございます。そして、人と人とのつながりは、今ここで生きている限り毎日毎日感じられるものだということも思い出させて下さってありがとう。(32歳 女性)